

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2394100073		
法人名	南医療生活協同組合		
事業所名	生協のんびり村 グループホームほんわか		
所在地	愛知県東海市加木屋町栗見坂12-1		
自己評価作成日	2015.01.08	評価結果市町村受理日	平成27年4月27日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民との交流をする。さくらまつり、流しそうめん、盆踊り、もちつきを開催している。</li> <li>・毎年旅行に出かけている。開設6年で6回で、そのうち1泊が2日が2回。</li> <li>・見学者の案内を、利用者様が行う。</li> <li>・全員で外食に出かけること、誕生日会を1日人ずつ開催すること。</li> <li>・介護サービスを利用するからこそ、利用者様の夢や希望、やりたいことが叶うようにしている。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2394100073-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2394100073-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>ホームは、母体が医療生協であることを活かしながら、地域で暮らしている組合員による活動が行われており、組合員の方がボランティアとしてホームの活動にも参加しながら、地域の方との交流や利用者の活動的な生活の実現に取り組んでいる。地域で野菜類を作っている方がホーム併設の喫茶コーナーで野菜類を定期的に販売する活動が行われており、利用者が職員と野菜を買い物する楽しみも行われている。ホームには、敷地内の離れた場所に小規模多機能事業所が開設されており、小規模多機能でおやつ作りが行われた際には、ホームの利用者も出かけて交流する機会もつづられている。また、医療生協である強みとして、医療面での細かな連携が行われており、状態が重度になった方についても、母体の医療機関への入院等の対応が行われており、利用者、家族の安心につながっている。</p>
--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成27年1月20日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	昨年4月に理念を作り直した。その後、職場会議などで、理念を確認をして実践につなげるようにしている。	ホーム独自の理念の作成を行っており、利用者、職員がホームで前向き生活が実現できることを目指した内容の理念となっている。理念をホーム内への掲示を行っている他、ミーティング等の機会でも振り返るよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	生協のんびり村の行事、見学などを通して地域の人との交流が広がってきている。近隣の店舗に買い物に行くなどして、顔見知りの人もある。	ホームでは、地域の祭事でもある盆踊り等に参加しており、地域の活動への参加が行われている。また、併設の事業所とも協力しながら、地域の方にも参加してもらう行事を行っており、相互の交流につなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	見学者や南医療生協の組合員向けに取り組みを発表することがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で、事業所の課題や困ったことを相談して、助言をもらうことがある。	会議は、併設事業所との合同で開催され、資料も準備しながら報告が行われている。会議には、法人の関係者も参加しており、ホームの現状の把握と運営面での改善等につながるような取り組みも行われている。	会議の参加者は法人の関係する方が多いこともあるため、地域の方や家族への参加の働きかけを継続されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	毎年、運営規程の見直しの時期に担当者としてやりとりをしている。また、運営推進会議の報告書を提出している。	管轄する広域連合に運営推進会議の報告を行いながら、情報交換等の機会につなげている。また、地域包括支援センター職員とも、ホームの状況等の情報交換等の機会にも取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中の職員が複数いる時間は玄関の鍵をかけていない。言葉による拘束にも職員が意識して、行なわないようにしている。	身体拘束を行わない方針のもと、現状、外に出ていく利用者が生活しているが、玄関の施錠を行っておらず、職員による見守りと外出時の付き添いに取り組んでいる。また、法人内の学習会の機会や日常的な注意喚起等にも取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者の虐待については、11月の職員会議で話し合いをした。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。				
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。				
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を開催して、ご家族に感想を述べていただいている。また、介護計画を作成する時に要望をきいている。	家族にホームに来てもらう機会を複数回つくっており、家族間の交流に取り組んでいる。法人でアンケートを実施しており、意見や要望等の把握に取り組んでいる。また、毎月ホーム便りの発行を行っており、利用者の様子を報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職場の会議、日頃のミーティングなどで職員が意見を言いやすい環境をつくっている。	毎月職員会議が行われており、職員からの意見や要望等は管理者が把握し、法人に報告されている。また、管理者による職員への個別面談の機会もつくられているが、管理者が交代したこともあり、細かな把握は今後のテーマでもある。	ホームでは、開設時から初めて管理者が交代している。新たな体制下で職員が前向きな気持ちで勤務できるように、今後の取り組みに期待したい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている。	昨年度から年間の休日が増えた。また給料、夜勤手当などが増えた。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の学習会、研修会のお知らせをしている。しかし、時間外のものには積極的に参加する職員が少ない。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	隔月で東海市認知症グループホーム連絡会を開催している。その中で、情報交換をしたり、職員の交換研修などをおこなっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	日々、コミュニケーションをとり利用者様の希望、要望を尋ねて関係づくりをしている。利用者様が困っていることを確認して介助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族が来所した時や必要な時に連絡をして、希望や要望をきいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	満員であっても相談を受け付けており、他のサービスを含めて必要な援助が受けられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様の思いに共感し、外に出たい方がいれば対応できるようにしている。念頭に置いているが、そういった関係が築けていないと感じる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	正月やお盆、誕生日などは家族の協力を要請している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出時に利用者様のなじみの場所に行くことを心がけている。	利用者の友人や知人がホームに訪問したり、敷地内に開設されている喫茶店での交流等、ホームでは馴染みの関係の維持に取り組んでいる。また、家族との日常的な機会もつくられている他、墓参りに出かけたり、自宅に戻っている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様の関係性を考えて座席を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も、行事の案内を出している。参加はあまりない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の言葉や趣向などの情報から本人の生活スタイルに近づけるようにしている。困難である場合も、本人の希望を実現できるように努めている。	職員は担当制も活用しながら利用者の把握に取り組んでおり、日常の会話や誕生日会の企画等から思いの把握にも取り組んでいる。また、把握した情報を細かく記録に残しながら、ミーティング等の機会にも話し合わせ、職員間の共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者様の生活歴を知り、日々の会話に取り入れて安心感を持って頂けるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	体調不良など申し送りを通して、職員が休み日のできごと把握できるようにしている。本人の意向や個人のペースを尊重して、無理強いしないように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族がこれからどのように過ごしていきたいかなど、希望要望を介護計画に活かしている。	介護計画には利用者の写真を載せてあり、職員や家族に利用者の生活について、前向きに考えてもらうような取り組みが行われている。また、介護計画の内容は6か月毎に見直されており、見直しに合わせたモニタリングも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送りや日誌、経過表を通して情報共有や状態の変化に対応する体制ができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	職員の提案が色々ある中、その時の状況に合わせた支援が臨機応変にできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者様が以前よく行っていたレストランに出かける、住んでいた家を見に行くなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月1回内科の主治医が往診に来ている。その他の緊急時は主治医の診療所に受診している。毎週来る訪問看護も主治医との連携ができています。	法人が医療生協である強みを活かしながら、利用者の状態に合わせた医療面での支援が行われており、家族の受診時にはホームからの情報提供も行われている。また、法人の訪問看護も行われており、利用者の健康チェックも行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週1回定期的に訪問看護がきているので、記録で情報共有している。また、必要な時には24時間いつでも相談、報告をして指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に利用者様が入院した時には、早期退院できるように病院関係者との情報交換を行なっている。退院に向けての調整が必要な時には、カンファレンスをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期のあり方については本人・家族と話している。重度化の指針、看取りに関する指針があり家族に説明してある。	ホームでは、重度の方への支援についても前向きな取り組みが行われており、医療面での連携も行いながら、利用者への対応に取り組んでいる。家族とは変化に合わせた話し合いが行われており、医療機関への入院等の対応も行われている。	母体の医療機関では医療面での新たな体制づくりも行われている。現状、重度の方もホームで生活していることもあるため、母体とも連携した取り組みが深まることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応マニュアルをつくり、対応できるように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域には組合員がおり、緊急時は協力依頼ができるようになってきている。火災、地震の避難については敷地が広いので、移動する間の危険も考えられるので生協のんびり村内の安全なところへの避難を考えている。	ホームでは、年2回の訓練を実施し、利用者の避難誘導等の確認が行われている。医療法人の強みを活かして、地域の組合員の方の協力についても話し合われている。また、水、食料等の備蓄の確保も行われている。	夜間を想定した訓練を実施するとともに、通報装置の使用方法に関する確や関連の事業所との合同の訓練等、職員間で連携を深める取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	なれなれしい言葉をつかうこともあるが、敬意を持って話をしている。	利用者が人生の先輩であることを考えて接するように取り組んでおり、言葉遣いに関する意識にも取り組んでいる。また、接遇に関するアンケートを実施しており、職員が利用者への対応を振り返る機会をつくっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員によって、本人の思いや希望を聴くよう意識していたり、つつい見過ごしがちになっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的に個人のペースで生活している。外出等の希望に職員の都合でそえないこともある。 利用者様のペースに合わせることで支援しやすくしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に髪を直している。自分で好きな服を着る利用者様もいる。おしゃれというより、防寒かもしれない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様の好みを職員が共有し、献立に変化をつけて楽しみになるよう工夫している。余裕がある時には、料理に多くの利用者様が関れるようにしている。	ホームでは、利用者もできることに参加しており、食材の買い物、調理、盛り付け、片付け等に参加している。食事の際には、職員にも利用者と一緒に食事を行っており、楽しい食事時間に取り組んでいる。また、状況等に合わせた外食も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者様に合わせて対応できている。水分摂取が困難な方にはゼリー等を出している。食事、水分量がわかるようにチェック表を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後とはいかないが口臭がある利用者様がないので、しっかりできていると思う。口腔ケアの大切さを学び、利用者様の口腔状態を把握している。 拒否が強い方はできないこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄の失敗がないよう、トイレの声かけをしている。必要時のみ職員が介助している。利用者様のトイレのサインを受け止めてトイレへの誘導をしている。	職員は、利用者の排泄状態のチェックを行っており、チェック表を確認しながら、職員間の情報の共有に取り組んでいる。また、訪問看護とも連携しながら医療面での連携にも取り組んでおり、排泄状態の維持、改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取量、運動等に注意しているが、薬品に頼っている利用者様もいる。食事の献立に気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	希望をきいて浴槽に入る、シャワーのみなどその時の状況で行なっている。拒否があってもタイミングをみて誘っているが、何日も入らない場合多少強引にやることもある。	ホームでは、毎日入浴の準備を行っており、利用者の希望にも合わせて毎日の入浴も可能である。重度の方も入浴できるように、職員複数での入浴介助も行われている。また、入浴剤を入れることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様のペースに合わせて休息したり、照明にも気を配っている。気温の変化に伴い寝具やエアコンで調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様が飲んでる薬の効用と副作用がわかるように、処方箋をカルテワゴンに置いてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様の生活歴や力を生かした支援を行なっている。料理や洗濯、掃除、買い物、見学の対応などできることをやってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	行事や外食、誕生会などで外出している。散歩、買い物、郵便局への同行なども「行きたい」という利用者様と出かけている。	関連の事業所や喫茶コーナーが敷地内の離れた場所にあるため、利用者の日常的な外出につながっている。また、季節に合わせた花見や状況に合わせた外出等の行事や、利用者の希望にも合わせて郵便局に出かけたりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は職員が管理し、買い物の時などにお金を使えるように支援している。 一緒に本人の希望するものを買に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人から希望があればやりたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	職員と利用者様が協力して清潔を保てるように掃除をしている。 危険な環境にならないように務めている。 職員が出す音、ラジオの音、音楽などにも注意するよう貼り紙がある。テレビはほとんどつけない。	ホーム内は木を多くとり入れたり、リビングや通路等が開放的な空間となっていることで、利用者に圧迫感を与えない構造となっている。また、季節に合わせた飾り付けが行われている他、ホームでの行事の際の写真を掲示したりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気があう利用者様同士と一緒に過ごすことができるように座席の配慮をしている。 ダイニングテーブルが2つあり、会話ができる利用者様が一緒に座っている。 ソファや椅子を所々に設置してあり、好きなところに座ることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	元気だった頃に使っていたものを居室に持ってきていただき、自宅同様落ち着いて暮らしていただく工夫をしている。 寝具、家具等個別に持ち込み、使い慣れて愛着がある。	居室には、利用者の好みの家具類の持ち込みが行われており、利用者が居室でゆったりと過ごすことができるような居室づくりが行われている。また、家族の写真を飾ったり、趣味の物を持ち込んでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの場所がわかりやすいように表示がしてある。部屋で立って歩いて転倒の危険がある利用者様の部屋は伝って廊下に来ることができるように家具を配置している。		